



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2024年(令和6年)11月25日号 No.1975

目次

■ 数字で見るロシアのLNG生産と輸出	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2024年12月号のご案内	8
■ トピックス	9
ロシア、低濃縮ウランの対米輸出禁止	／9
JBIC、アゼルバイジャン国営石油公社と覚書締結	／9
米、ガスプロムバンクを制裁対象に	／10
ロシア出入国時に指紋採取を義務づけ	／10

数字で見るロシアのLNG生産と輸出

はじめに

今号では、ロシアの調査会社Tebiz Group発行「ロシアのLNG市場分析」から、ロシアのLNGの生産・輸出動向を紹介する。ご存知のとおり、ロシアは2022年2月のウクライナ侵攻以降、エネルギー製品の生産や輸出データの公表を制限している。国際機関や各国税関当局が発表するデータとの間に多少の差はあるものの、侵攻の長期化と西側との関係対立がもたらした輸出先の変化など、Tebiz Groupの資料を分析することは、ロシアのLNG部門をよりの確にとらえるヒントになるはずである。

解説

昨年1年間にロシアで生産された液化天然ガス(LNG)は3,286万5,400tで、2年ぶりに減少した。ロシアは2009年にサハリン2プロジェクトでのLNGを初めて輸出して以降、2017年に「ヤマルLNG」、2024年には「アークティク2」での出荷をそれぞれ開始し、生産量を飛躍的に増やしてきた。2022年のLNGの生産量は3,300万tを超えて、LNG生産・輸出国として存在感を高めてきた。2023年のLNGの生産量は、過去最高となった2022年から一転、前年比2.4%の落ち込みとなった。サハリン2での生産が定期検査のため、前年を下回ったことが主な要因とみられる。

ロシア最大のLNG生産地域はウラル連邦管区で、そのほか極東連邦管区、北西連邦管区などが上位を占める。全体の6割以上がヤマルLNGとアークティク2LNG両プロジェクトが所在するウラル連邦管区、全体の3割がサハリン2プロジェクトが所在する極東連邦管区である。

ロシアでLNG生産が始まったのは2009年からに過ぎない。当初はサハリン2からの生産が続いた。